

	ひと	場所	お金	情報
ウチの班… 検討テーマの 「タイトル」は？	意欲とノウハウのある組織・個人を活用するにはどうすれば良いか。	・サポータークラブの設置 ・ソフト面の充実	安城らしい”お金”の支援を行う仕組み！	・ボランティアの枠を超えて楽しめるサイト・ ロコミ・紙媒体、シンブルイズベスト ・だれにでもわかる協働の事例集 ・”こんなまちになったらいいな”という 情報の入り口が大切

人
社協の職員も活用すべし。
コーディネーター
活動家の支援
頑張っている人がいる。
北名古屋市の保健士など頑張っている人もいる。
意識の高い同志の連携。
協働するためには自立するのが前提。
組織
能力のある部署に権限を渡すべし。
意欲のある組織を活用すべし。
ノウハウを持っている組織を活用すべし。
社会福祉協議会の役割。

協働の拠点
ハードは充実。ソフトを充実したい。市民を活用してほしい。→安城の弱いところ。お金をかけない仕組みづくりが重要。継続する仕掛け
センターの機能は何が不足している？センターの機能充実をめざす
わくわく、ボラセン社協、生涯ボラセンは利用形態が別々。歴史がある。無理に一つにする必要はない。
場所によって月曜日休みをやめて欲しい
公民館は地区によって利用にバラツキ→ならす工夫
育成するセンターづくり
拠点がばらばら
登録もそれぞれ
相談→継続に見守る必要

安城の協働「こうしたらどうか」
協働の問題点は法人格、NPOが少ないこと(20団体)→契約ができない。報酬でしか払えない。→団体づくり。そしてこれを育てることが大切。→センターがどのように機能するかを検討すべき
専従が必要。スキルがいる。会計
法人格を持っていないと。この指導をすべき
男性と女性はうまくいかない。男社会でNPOは動かせない。コーディネートする人が必要
単発じゃなく継続で
世代、立場を超える
お金はほしいが・・・
申請書書くなら活動したい
講師紹介、推薦について支援して欲しい
NPO法人格取得は書類、時間など難しい。法人格はなくても活動できる
補助金だとやりたい活動が制限される恐れ。あくまで「自主的」行政に依存しない
主旨、目的に賛同すれば協働
お金はもらわない。行政は情報をもらえばよい

60周年公募事業について
60周年公募事業。コンペを活動センターですれば
半分自己資金→ハードルを低くしないと参加できない
公開決定。企画力がつく。仕掛けづくり

他市町のいいところ
リブラのサポータークラブ 有料(年会費):千～二千円程度
神戸市プラットホーム:職員と民間スタッフが一緒に働く
デンソーとアピタのコラボ。社員以外の人もある。トヨタの刈谷安城は今年から参加

財源について
お金をどこから出すか。
寄付を集める＝理解が必要。
予算枠制度。
パーセント条例は個人的にはどうかと思う。
市民団体に投票する。市民団体の認知度？
税金を使う→協働していない人に対して不利？
運営費が3000万円ほどかかるらしい。

助成の体験談
プレゼンをするのが大変だ。
年三回の報告の義務がある。
赤い羽根募金の義務がある。
社協の助成を受けた。
はじめの一步＝団体に対して助成。

団体での活動
団体希望寄付制度
行政の基金に対して寄付をすると控除がある。
”希望”寄付というのはひも付きみたい。

町内会の扱い
町内会をどうあつかうか。
町内の枠もとび出すことも重要なのでは。
市民活動は多様→公益性のないことも。
公平性、公益性が大切と審査時に言われた。
支援を行う仕組みをつくらねば。

紙媒体
協働の事例集が作りたい。
小学校高学年にも理解できるもの。
字だけでなく、マンガ、絵、色を入れて読みやすく。

人による情報発信
情報は紙媒体とロコミ
人それぞれの(情報の)方法があってよい。
市民センターが一つの拠点となる
人の手を借りて仲間の力を広げる
市のスーパー職員を作る。

webによる情報発信
サイト・ブログは広がりがある。
ボランティアの枠を超えて楽しめるサイト
分かりやすく一目でわかるページ構成
全国ネットに載るくらいの気概が欲しい。
ブログ仲間の情報交換による連携